

平成21年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 9	取組 名称	京都府北部海岸地方の野生動植物に関する研究
研究代表者： 生命環境科学研究科 教授： 平井正志			
研究担当者： 京都府立大学（平井正志、吉安 裕、中尾史郎、大迫敬義） 外部分担者・協力者（岡 奈理子（山階鳥類研究所）狩野清貴（京都府教員）大城明夫（鳥類調査業） 井上耕治（京都府教員）ほか			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府文化環境部自然環境保全課（連絡担当者佐藤芳郎氏） 団体：冠島研究会 など 個人：京都市 田端 修氏、舞鶴市 黒田悠三氏、清水巖三郎氏			
【研究活動の要約】			
<p>オオミズナギドリについては2羽に発信器を装着し、その採餌行動を衛星で追跡した。イソスミレについては全国の生育場所について調査し、各集団の遺伝的多様性を算出し、近縁のタチツボスミレなどのそれと比較した。</p> <p>丹後市久美浜町及び三重県津市白塚海岸のコウボウムギ個体群内に方形区を設置し、区内に生育するコウボウムギの全てのラメットについて位置を測定し、植物体を採集し、DNA分析により遺伝子型を決定した。遺伝子型に基づき、クローン繁殖のパターン等を解明した。</p> <p>2009年6月及び7月にヒヌマイトトンボの生息が確認されていた京丹後市・久美浜湾に流入する河川河口を現地調査した。また、9月初旬オカヒジギに寄生するマダラメイガについて分布を調査した。昨年15年ぶりに生息が確認された舞鶴市のオヨギカタビロアメンボの生息状況を、2009年9月に再び調査した。また、福井県高浜町の溜池も調査した。さらに飼育して、越冬形態についても調査した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>オオミズナギドリについては新たな採餌海域（日本海中西部）の存在を示唆するデータが得られた。イソスミレの遺伝的多様性が明らかになり、保護に向けての指針が得られつつある。コウボウムギの個体ごとの遺伝子型を調査し、クローン繁殖の様相が解明された。ヒヌマイトトンボは残念ながら、久美浜湾での生息を再発見できなかった。オヨギカタビロアメンボを舞鶴市の生息地で再確認したところ、有翅型個体が出現していないことが判明した。佐賀県産および舞鶴市産個体群を飼育し、いずれの個体群も卵態越冬することを確認できた。</p> <p>（詳しくは付帯文書を参照してください）</p>			
【研究成果の還元】			
<p>（開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください）</p> <p>2009年12月 舞鶴市西公民館 約50名参加 （報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください）</p> <p>滋賀県におけるオヨギカタビロアメンボの初記録「南紀生物」51巻2号：150-152頁 京都府と滋賀県における絶滅危惧昆虫3種の記録「南紀生物」52巻1号（印刷中）</p> <p>Takanori Ohsako (2010) Clonal and spatial genetic structure within populations of a coastal plant, <i>Carex kobomugi</i> (Cyperaceae). <i>American Journal of Botany</i> 97(3): 458-470.</p>			
【お問い合わせ先】			
学部		応用昆虫学研究室 職名：中尾史郎	
Tel: 075-703-5618		E-mail: Nakao@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



ACTR発表会
2009年12月6日 舞鶴市西公民館にて



イツスマイレ （石川県にて）



過去の好適な生息地におけるヒヌマイトトンボの分布調査
(2009年6月27日)



オヨギカタビロアメンボ